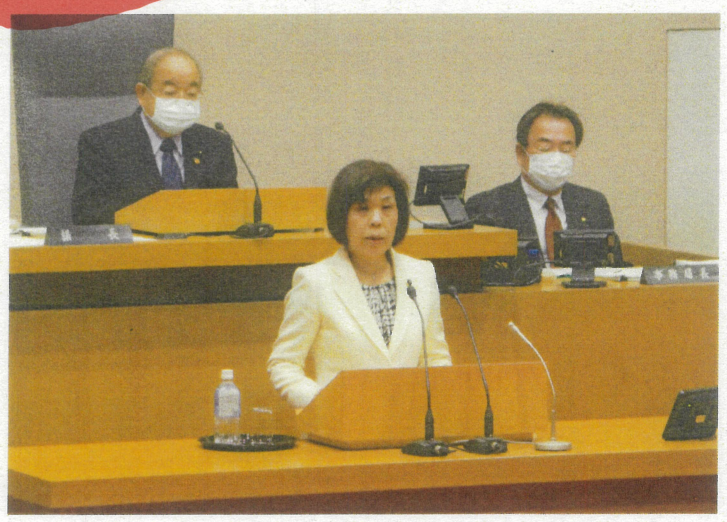
笑顔がつくる、はつらつ島根。

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート　2022.4　April　vol.58-1

二月定例議会一般質問概要

原発再稼働の是非を討議



今定例議会では、コロナ対策を中心とする新年度予算案などの審議が行われ、提出議案はすべて可決しました。開会中にロシアによるウクライナ侵攻が起き、議会でも「ロシアによるウクライナ侵攻に抗議する決議」を可決しました。また、一昨年の国勢調査結果を受け益田選挙区の定数を3人から2人に減じ、全体の定数も37人から36人に変更する条例の改正を行いました。

保健福祉職員の処遇改善

かねてから保健・福祉に関わる職員の賃金が低いことなどは指摘され処遇改善の必要性が語られていました。これらの職種の賃金等に関することは、国で基準が定められています。このコロナ禍で職員確保が喫緊の課題となり、賃金のベースアップに国もやっと取り掛かりましたが、実際に関係職員のすべて人たちの賃金がアップするのか、注視しなければなりません。

❤各施設に交付された財源が実際に該当する職員の賃金に反映されているのかについて、どのように把握されるのか。

健康福祉部長　事業終了後の実績報告において、介護職員分については、前年2月から9月の職員の賃金総額と今年の同じ期間の賃金総額を報告してもらい、賃金総額が増加していることを確認。看護職員分については、賃金改善実績額の総額を報告してもらい、確認する。

保育士分については、実績報告書が市町村へ提出される仕組みで、各市町村で交付金が賃金改善に反映されているかを確認する。

❤県内の勤労者の平均賃金はいくらか、それに対して該当職種の平均賃金は処遇改善後どのくらいになるのか。

健康福祉部長　賃金構造基本統計調査を基にした令和2年の県内全職種の月収換算の平均賃金は、33万4千円。福祉施設等で勤務する介護職員が28万5千円、看護師が39万7千円、保育士が27万9千円。今回の交付金により、該当職種の賃金は一定程度引き上げられるが、公金を介護職員、保育士、看護職員以外の方の賃金引上げに充てることも可能な仕組みとなっていることから、改善後の該当職員の賃金を推計することは難しい。

島根原子力発電所対策特別委員会

再稼働について拙速に結論を出させない

島根原発2号機の再稼働について審議する島根原子力発電所対策特別委員会では、再稼働に反対、賛成のそれぞれの立場から請願・陳情が出されていますが、今回は継続審議となりました。請願提出者からの意見を述べたいという要望は否決されてしまいました。

原発周辺自治体に住民団体から出されていた再稼働の是非を問う住民投票の実施についても取り上げられることなく、本当に住民の声を聴いたといえるのでしょうか。議員は住民の代表として出ているから議会の意見を聞けばいいと言われますが、選挙の時に原発のことを取り上げて立候補した議員がどれほどいたでしょうか。有権者の皆さんも、原発のことだけで票を投じているわけではありません。

今、ロシアによるウクライナ侵攻では、原発施設への攻撃もされており、放射性物質の拡散が懸念されています。様々に原発の安全性に不安を抱える住民との丁寧な対話を続けることが必要です。

【発行者】角　智子　〒690-0063 島根県松江市寺町67-23 TEL.(0852)28-8880 FAX.(0852)28-8881 E-mail:sumi@tomachan.net ホームページアドレス http://www.tomachan.net/

コロナによる子どもの心身への影響

スポーツ庁は２０２１年度「全国体力・運動能力調査」の結果を公表されました。それによると体力調査の合計点は２０１９年度に比べ、小・中学生の男女ともに低下し、肥満の割合が増加したとのこと、これは、コロナ禍による運動時間の減少や、テレビ、スマホ、ゲームなどを視聴するスクリーンタイムの増加などの影響だとしています。

❤スクリーンタイムが増えることで視力低下など健康面への影響が心配されるが、どのような対応をされているのか。

教育長　令和３年度の調査結果によると、県内の児童生徒が平日、学習以外でテレビゲームやスマートフォン等の画面を２時間以上見る割合は、新型コロナウイルス感染症が流行する前の元年度と比較すると、５から11ポイント程度の大幅な増加となっている。また、視力については、裸眼視力1.0未満の割合は、元年度と比較して約１から３ポイントの微増となっている。

対応として、学校保健担当の教員や養護教員に対する専門家による研修の実施、過度の電子メディア接触による影響について科学的な根拠を基に伝える専門家の学校等への派遣、県教育委員会幹部職員等を対象とした電子メディアの長時間使用による脳や視神経への影響、eスポーツの負の部分などの情報を正しく理解するための研修などを行っている。

今後は、視力への影響だけではなく、もう一歩進めて脳の発達への悪影響などを子どもたちや保護者にしっかり伝えていく必要があるのではないかと考えている。

❤❤❤❤❤益田市の魅力発見❤❤❤❤❤

民主県民クラブでは３月25～26日に県内調査を益田市で行いました。

社会医療法人正光会が運営する「さんさん牧場」では、コミュニケーションが苦手な障がい者が馬との関わりで意思を伝える練習を行うホースセラピーを行っています。また、馬の糞をたい肥にして活用する農業を障がい者の働く場として活用する「農・商・福」連携プロジェクトを行っています。さんさん牧場は、障がい者の皆さんの社会参加の場づくりになっているとともに、地域の人たちの馬や小動物との触れ合いの場ともなっています。

さんさん牧場の馬と職員の皆さんと

一般社団法人「豊かな暮らしラボラトリー（ユタラボ）」は「豊かな暮らしに」を目標に、自分らしく居られる場所をすべての子どもと大人へ提供することを通して、人づくりに取り組んでいます。

地域の大人と子どもが一対一で対話し、自身のライフキャリアを考える「カタリ場」や、地域の大人のプロフェッショナルを体験できる中高校生向けの社会教育プログラム「ミライツクルプログラム」、誰かに制限されることなく自分の意志でやってみたいことを形にしていくことへの支援活動「高校生マイプロジェクト（マイプロ）」などや、大人向けのマイプロなど様々な人づくりにかかわる取り組みを行っています。代表の檜垣賢一さんはじめスタッフの熱意が伝わるプレゼンに、益田市以外の自治体からも事業委託の引き合いがあるというのも頷けました。

ユタラボのスタッフの皆さんと

ユタラボの取り組みを聞く

中世日本の遺構が数多く残るまち益田市は、日本遺産に認定されています。その日本遺産について、益田市文化財課の案内で史跡を巡りながら説明を受けました。中世の益田地域において、領主益田氏が如何に手腕を発揮し、政治・文化に力を注いだかがわかり、改めて、益田市の魅力を感じました。